心に残る映画

『ザ・スーパーマリオブラザーズ・ムービー』

2023 年／アメリカ・日本合作／監督：アーロン・ホーヴァス、マイケル・ジェレニック

『ザ・スーパーマリオブラザーズ・ムービー』
9月6日（水）発売
価格：
ブルーレイ＋DVD（税込）5,280円
4K Ultra HD＋ブルーレイ（税込）7,260円
発売元：
NBCユニバーサル・エンターテイメント
Amazon Prime Video, Apple TV+, U-NEXT他にて配信中
© 2023 Nintendo and Universal Studios. All Rights Reserved.

国民的キャラクターが世界に羽ばたいた作品

会員　齋藤 理央（63 期）

私たちの世代は、小学校から中学校くらいまでの間、ファミリーコンピューター（以下「ファミコン」という）をはじめとする任天堂のゲーム機が一世を風靡していた世代で、ゲームと共に育ってきたと言って過言でなかった。たしか、最初に我が家に来たゲーム機は何故かファミコンの拡張機だったディスクシステムだったように記憶している。最初はスーパーマリオブラザーズ（以下「マリオ」という）ではなく別のゲームをプレイしていたが、程なくしてマリオ２が発売された記憶だ。また、どうしてか、その後にようやくマリオ１をプレイした記憶だし、ファミコンで発売されたマリオ３にもはまった。ゲームボーイのマリオランドもよくやったゲームだし、スーパーファミコンが発売された時は同時に発売されたマリオワールドをやり込んだ。また、マリオカートは友達と集まって遊ぶゲームの定番だった。このように、我々の世代はマリオと共に育ったと言って過言ではない人も多いのではないだろうか。そういえば最近ではスマホゲームのマリオランもクリアした。

法曹になってからも、マリオのコスプレで公道をゴーカートで走らせる業者が不正競争防止法違反などに当たるとして任天堂より提訴されたマリカー事件など話題の事件もあり、メディアに求められてマリオが関係する専門家コメントをしたことが複数あった。

そんな馴染みの深い日本を代表するキャラクターであるマリオ。彼らが映画化され、全世界でヒットしているという。気になって映画館に自然と足が向いていた。

どんな映画なんだろうと気になっていたが、まさにスーパーマリオブラザーズ！という世界観の作品に仕上がっていた。本当にゲームのマリオをそのまま3D アニメにしたような作品で、驚くとともにゲームに入り込んだ感覚になりとても楽しかった。そうそう、マリオ達の世界は多分こんな感じなんだろうと、素直に映画の世界に入り込めた。制作陣にも原作へのリスペクトと、そして深い理解が窺われ、やはり、万人に愛されているゲームだからこういうことが起きるのだろうと感心してしまった。ストーリーは複雑ではなく王道的で、万人が楽しめるエンタメ作品に仕上がっていると思った。誰にでも薦められる映画だが、やはり我々のようなマリオと共に育ってきた世代には是非見て欲しいと思う映画だった。

映画はせっかくなので映像や音声に合わせて座席が動く4DXで見たが、これほど4DXに向いている映画はないというくらい激しく動いた。後半は特に後頭部を必要以上に殴られたが、座り方が悪いとこうなるのでご注意を。できれば映画館で、さらにできればそれも4DX等で見て頂きたい映画だ。また、こうした末長く作品が愛されるキーポイントになっているのは間違いなくマリオというキャラクターの存在だろう。多数の作品群の登場人物が全て異なった人物であれば、作品群はこれほどまでの広がりを見せていないだろう。作品や情報の価値を気付かないうちに底上げするキャラクターという存在は、普段気付かないこうした作品の繋がりや価値の底上げという効能にこそ、真価があるのかも知れない。